

形成外科の診療

外来が始まりました！

—九州大学病院 形成外科—



かどた ひでき
門田 英輝

よしだ せい
吉田 聖

● 形成外科の紹介

形成外科とは体に生じた組織の変形や欠損、また整容的に不満足な部位をより正常に近くすることで、患者さんの生活の質“Quality of Life”（QOL）向上に貢献する外科系の専門領域です。術後に生じた傷あと（瘢痕拘縮・ケロイド）、上下肢のリンパ浮腫、顔面神経麻痺、眼瞼下垂、口唇口蓋裂、手足の先天異常、頭頸部がんや四肢・体幹腫瘍切除後の欠損、下肢の難治性皮膚潰瘍など、全身におよぶさまざまな疾患を取り扱っています。

当科外来は、九州大学病院形成外科からの日本形成外科学会専門医：2名の派遣で診療を行っております。初診・再診ともに**第二・第四火曜日の午前**になります。（※自費診療での治療、美容形成は行っていません。）

● 対応可能な治療

■ 瘢痕拘縮・ケロイド

外科手術後に生じた傷あとが目立つことがあります。傷あとを切除する手術、テーピング、圧迫、ステロイドの注射等を行い、傷あとが目立たないようにします。

■ リンパ浮腫

婦人科疾患治療後の晩期合併症である下肢リンパ浮腫や、腋窩部郭清後の上肢リンパ浮腫に対し、リンパ管細静脈吻合術による治療を行います。

■ 顔面神経麻痺

ウイルス感染や脳神経外科・耳鼻咽喉科手術後に顔面神経の麻痺が生じることがあります。麻痺が回復しない場合、筋肉や筋膜の移植等を行うことで、顔貌をもとに近い状態へと戻します。

■ 眼瞼下垂

加齢とともに上まぶたが下垂し、上方が見えにくくなることがあります。余った上まぶたの皮膚の切除、まぶたを上げる筋肉の短縮などを行い、上まぶたが上がりやすくなるようにします。同時に、整容的な改善も可能です。

■ 口唇口蓋裂・手足の先天異常

生まれつき生じた口唇や手足の変形をよりよい形態・機能へ戻すよう、手術による改善を行います。

■ 頭頸部再建

頭頸部がん切除後に生じた顔面・頸部の欠損や顔貌の変形に対し、自家組織移植（大腿や腹部からの皮弁、小腸移植、腓骨の移植等）を行い、術後の形態・機能の回復に努めます。

● 診療の予約について

通常通り地域連携室（事前予約窓口）へ電話orFAXをお願いいたします。

電話：0120-489-788 / FAX：0120-229-822